

神大生旅行記①
カリフォルニア交通事情の巻

どうも、一応現役神奈川大学学生、現在カリフォルニアのあるコミュニティカレッジにて勉強中の宮崎です。早いもので、私がカリフォルニアにやってきて6ヶ月がたとうとしています。日本はまだまだ寒さ厳しいでしょうが、こちらはもう桜が咲き乱れ、芝生も空も青々と元氣いっぱい、まさにカリフォルニアドリーム！って感じです。こんなこと書くと、皆さん「あ、俺もアメリカに住みてえなあ」とか「楽しそうだなあ」とか思うでしょ？そんな皆さんに言っておきます。

アメリカそんなに甘くないぞー！

というわけで車を運転される方々に問題です。

赤信号のとき、あなたはどしますか？

はい、答えはもちろん「止まる」ですね。え？何馬鹿な質問してるんだって？でもこの問題ね、カリフォルニアの運転免許取得のためのペーパーテストに実際に載ってたらしいですよ。えっ？そつって？いやいやほんとだつて。……いやほんと。まじで。信じて。だって友達かペーパーテスト受けたときにこの質問あつたって言ってたんだもん。

さてさて、ここで露呈するのがアメリカのとてもない交通事情。自由の国アメリカでは、車運転してる人もかなり自由ですよ。私の周りにはアメリカに来てから交通事故にあつた友達が3人。二人は道を歩いているときに車にはねられ(まあ無傷だったけど)もう1人は車に乗っているときに他の車にぶつけられたと。

そういった事故の原因のほとんどは運転手の不注意。アメリカで車を運転してる人のほとんどは運転に向いてないんですよ、基本的には。ではなぜそんな人たちが運転しているのか？それは、カリフォルニアは車がないと生きていけない土地だから。日本だったら

「車で5分、歩いて15分」の距離も、アメリカでは「車で5分、歩いて40分」ですから。信号が明らかに少ないから、5分間あれば車なら相当先まで行ける。そしてその数少ない信号もしょっちゅう壊れてる。歩行者用だろうが車用だろうがとにかく壊れてる。そしてなかなか直らない。これぞ自由の国アメリカ。

普通に一方通行の道に逆側から乗り込んでくる人多数。歩行者がいるにもかかわらずむりやり右折しようとする人も多数。私も一度ひかれそうになって、むかついて車のボンネットをぶつたいたことがあります。あぶねえあぶねえ。歩道のどまんなか平気な顔して車を止める人も多数。人間が道を歩いているという事を想定して車を運転している人は少数。だって、歩行者用の信号は全部押しボタン式だからね。ボタン押さないと青にならないもの。住宅街歩いているときなんて、自分以外の人影が見つけられない。いかに皆が車に乗っているかっていう話ですよ。誰も外を歩いてない。ホラー映画に出てくる寂れた町みたいで怖い。携帯電話片手に運転するのまだまだ違法ではありません。バスの運転手だって乗客乗せたまま携帯片手に運転しています。



まあね、バスの運転手がまたひどいんだよ、これが。カリフォルニアのバスの運転手は、日本にいたら確実にバスの運転手になれない。5分でクビ。カリフォルニア滞在開始時から毎日バスを乗り継いで学校に行っている私ですが、そこで数々の伝説を目にしました。携帯電話で話しながら運転するなんて序の口。一番笑つたのはスイカ食べながら運転している運転手を見たときですが、一番怖かつたのは運転手が普通に信号を見逃して赤のときに大通りに突っ込んでいったときです。スターバックスでコーヒーを買うためにバス停でもないところにバスを止めてコーヒー買いに行った馬鹿もいます。道を歩いている友人に声をかけるために走行中にバスのドアを突然開ける阿呆もいます。

あ、一応バスのシステムを説明しておきましょうかね。基本的なことは日本と同じ。料金はどこまで行っても一律\$1.75。バス停が各ポイントにあつて、降りたいときはそのバス停の手前でバスの中に張り巡らされているコードを引っ張ると、まあね、コード引っ張っても普通に無視されるんですけどね。人が待つてるバス停の前を素通り、なんてよくあることだし。だから、降りたいと思うバス停が近づいて、コードを引っ張つたあととはかなり気をつけなければいけない。運転手がバスを止める気配がないと分かつた瞬間に叫びましょう。「STOP！」と。そこでもし勇気が出なくて運転手に声をかけられなかった場合はそのあとが悲惨です。次のバス停が遠いからね。日本みたいに「ひとつ手前のバス停で降りて、健康のために歩こうかな」なんて思っちゃいけない。次のバス停までの距離は歩いたら軽く15分オーバー。へたすると30分ぐらい歩かされます。

そしてもうひとつ気をつけなければいけないのは、車を持っていないやつは夜遊びするな、ってこと。私の家に帰るために乗らなくてはいけないバス81系統は、平日最終は9:40 P.M、土日、祝日の最終は8:55 P.M。どうにもなりません。私は一度友達と「フライデーだからフライデイズ(アメリカカンストラン)行こうぜ！」と若さゆえの阿呆な計画を立てたために、最終バスに乗り遅れて大変な目にあいました。自由の国アメリカに痛い目にあわれました。

どうですか？みなさん、カリフォルニアドリームはナイトメアに変わりましたか？
アメリカ怖い。

Feb. 25th, 2005 宮崎美希



神大生旅行記②
イギリス旅行記



外国語学部英語英文学科
池田季穂

世の中の人々がアテネオリンピックに夢中になっていた2004年の8月、私は知人と2人で語学研修と観光を兼ねイギリスへ行った。成田空港から12時間かけてヒースロー空港に到着。長旅の疲れも忘れ、私は期待と興奮でいっぱいだった。イギリスの第一印象は国全体が見所満載で絵になる観光地。写真好きな私は、全てを写真に収めたい!と思ったほどである。後でホストファミリーに聞いて知ったのだが、人々が住んでいる家も百年以上前のもので歴史をつなげ、老朽化した時は内装のみを変えていくようだ。

1週間をかけてロンドンを観光したのだが、その中で印象に残る場所を幾つかピックアップしたいと思

う。バッキンガム宮殿内は、大理石で作られた階段や巨大なシャンデリアそれに煌びやかなドレスの数々にウットリ。代々の王室の豪華絢爛な部屋と共に、エリザベス女王の戴冠式の映像など、各時代の様子を知ることが出来て興味深いものだった。外では1日置きに衛兵の交代が行われていたのだが、これを見るのは気合と体力が必要で、私たちは1時間半前に着いていたにもかかわらず、すでに人だかりが出来ており身長が低い私の視界は封鎖され、周りでは多くの言語は飛び交い、見学体勢は丸で出来ていない。騎馬警官が現れ、声を張り上げて道路整備をだし、なんとか行進を見ることが出来た次第である。他に



もロンドン塔や世界のコレクションが集結している大英博物館はお薦めである。ほとんどの観光場所にはオーディオCDが用意されており、有料だがより楽しめること間違いなし!テムズ川の横に位置するロンドン・アイと呼ばれる観覧車からの景色は絶景で、ライトアップされたビックベンやロンドン橋、ウエストミンスター宮殿などが一望でき凄くロマンチックだった。さらに、ロンドン近郊に位置するハンプトン・コート・パレスでは、庭園は色彩豊かで区画ごとにデザインが異なっており、優雅でリラックスした気分を味わった。

移動は、主にダブルデッカーと呼ばれる赤色の2階建てのバスや、チューブと呼ばれる地下鉄を利用した。双方、1日券を購入すると移動が簡単でどこへでも自由に行くことができて大変便利だ。全ての通りに名

前があるので、あまり迷うことはなかった。

天気の良い日はハイド・パークやグリーンパークなどの国立公園で、リスや騎馬警官を横目に見つつ、スーパーで買ったりんごやマフィンを持ってランチを楽しんだが、イギリスの天気は変わりやすいことで有名である。私たちも何度か雨に見舞われた。朝晴れていても急変するので、傘は必需品！ダブルデッカー内ではカップを無料配布していたのには、笑ってしまった。

ハロッズなどの大型モールがあるボンドストリート周辺でのショッピング。ありとあらゆるものが取り揃えられてあり、お土産選びに悩んでしまった。町を歩いていて驚いたことがある。それは中東の人々の数の多さである。しかも彼らは観光者ではなく、イギリスで生活しているようだった。自国から避難して来たのだろうか？それにしても物価の高いイギリス、しかもロンドンで生活をしているのだから、よほど裕福な家庭出身の人達なのだろう。そのことは服装からも伺えた。真っ黒な服に身を包んだ女性たちにとってはスカーフがオシャレのポイントのようで、某海外有名ブランドを頭に巻いていた。目のまわりしか見えなかったが、顔は人形のように小さく、彫りが深くとても綺麗だった。

7日間はあると言った間に過ぎてしまい、次はいよいよ



よ語学研修！

ロンドンを離れ南へ2時間半。研修地のポーンマスは素晴らしい海水浴場があり、避暑地で有名な町なのだが残念なことに滞在中は冷夏が続き、海で泳げる日は1日もなかった。町はそれほど大きくなかった

が、自然が沢山あるきれいな町だった。ポーンマスに到着しホストファミリーの家へタクシーで向かうと、なんと留守！知人のホストファミリーも不在！そんなことであるの？思わぬ事態にやや不安になったが、私たちではどうすることも出来ないの、とりあえず留守電にメッセージを残し、知人（現地で合流したアメリカ人）の滞在するホテルで待機をすることにした。30分もするとホストファミリーが迎えに来てくれた。遊びに行っていたのだが、帰りに渋滞に巻き込まれてしまい予定よりも帰宅が遅れてしまったようだ。家族構成は、バスの運転手をしているお父さん、スコットランドに近い北部の出身で独特の発音があった。お母さんは美容師で、6歳の娘が1人の3人家族。娘のLaurenはおしゃべりが大好きで、私という勝負。おままごことや、鬼ごっこなどをして楽しく過ごしたのだが、入浴中でも、寝ているときでも突然バスルームや部屋に入って「遊ぼうよ」といつてきたのには、ビックリした。Laurenは偏食が激しく、野菜類はほとんど何も食べないのだが、ホストマザーは、その事に関して娘を叱ることはない。少しでも食べた日には褒めに褒め、食べなかった日は、「いつかは食べるようになるわよね」と、とても楽観的で明るい家族だった。

ドキドキの登校初日。緊張した面持ちで学校へ向かうと、入り口では、先生がお出迎えをしてくれた。2週間宜しくお願ひします！ほとんどの生徒が私と同じように夏休みを利用した2〜3週間の研修なのだが、生徒の8割以上が欧州のbusiness peopleで、残りの2割が世界各国の大学生だった。そのため年齢も10代から60代と幅が広がった。意外なことにアジア人が凄く少なく日本人も数えるほどしかないなことがわかった。初日は午前中にListening, Grammar, Writingから成るテストを受け、午後一にクラスが発表された。

私のクラスは国際色豊かで、ドイツ人3人イタリア人2人フランス人2人と私を含めた8人だった。私以外はBusiness Peopleだった。会社から要請を受け、この研修に参加しており、授業は主にビジネス英語を学んだ。ロールプレイなどを通してクラスメイトとは、すぐに仲良くなる事ができたのだが、授業は結構難しかった。先生はたびたび各国の企業のことや経済事情について質問するのだが、私は日本語でも答えることができないような質問に絶句してしまうこともあった。そして、自分の勉強不足を感じた。たとえ簡単な内容でも、皆は私の発言を通して日本人を想像するので適当なことはいえなかった。さらに、皆は他の人が話していても発言し続けたり、先生に対しても異議申し立てをしつかりとしたりと圧倒されてしまうこともあった。思ったこと、感じたことを伝えるのは大切なコトだが、個々の主張を通そうとするので、授業は度々延長された。

登校2日目には人の優しさに触れたエピソードがある。知人と市内観光をし、別れた時刻が夕刻7時過ぎ。私は家へ帰るバスを待ったがなかなか来ない。待つこと45分。段々と暗くなり始め体も冷えてきたので、思わず来たバスに乗り込んでしまった。しかし



車中から見えるのは昨日とは違う景色……。乗客の数も少なくなく、周りの人に地図を見せ現在地を訪ねた所、そこは家とはかけ離れた場所だった。その様子を見て、親切な30歳

位の韓国人男性が声をかけてきた。彼の家が近くにあるので、全く離れた私の家まで車で送ってくれるという話だ。私は好意に甘え、無事家にたどり着くことが出来た。人の優しさを痛感した。

さて、放課後はクラスの皆で映画やパブに行き、真面目な話から下らない話まで沢山した。ここでも皆のマシンガントークが炸裂したが、ここでは私も本領を発揮し楽しい時間を過ごした。週末は、クラスメイトとレンタカーを借りてオックスフォードへ行った。運転はドイツ人。しかし、ドイツは右走行に左ハンドルなので、イギリスとは全くの逆。左走行に慣れてないドイツ人は路肩ぎりぎりを走り、しかもスピード強！誰も道がわからないのでラウンド・アバウトの中心で急停止をしたり、と油断ならぬドライブだった。絶叫マシーンが大好きな私だが、思わず無事を祈ってしまった。

漸くオックスフォードに着いた一行は、ダブルデッカーで市内を観光した。「不思議の国のアリス」が生まれた町でも知られているが、なんといってもイギリス最古の大学であるOxford Universityがあることで有名だ。500万冊にも及ぶボドリアン図書館や、町の至る所にカレッジや教会寮があり、大学の中に町があるようだった。教会寮内はハリポッターの世界を連想させた。思い出深い1日になった。

授業は相変わらず難しかったが、とても有意義だった。なぜなら皆のモチベーションがとても高く、同じ国籍同士でも英語を話していたし、毎朝授業が始まる前は、授業の内容を用いたディスカッションがなされるという徹底ぶりだったの

で、良い刺激を受けることができた。最後の授業では、先生から修了書を貰い、別れの挨拶のMissをして泣く泣く別れた。機会があれば、また再会したい。

3週間という短い間ではあったが沢山の発見をし、また貴重な体験をすることが出来た。ロンドン観光では、大学で勉強したものを生で見ることができたという感動は大きい。研修先では生のイギリス英語を学び、そして他国の文化を知った。言葉も文化も違う者同士が英語を通じて交流を図ることは想像以上に素晴らしいことだった。その反面、自分の知識の乏しさを痛感したので、これからは様々な分野に興味を持つようにしようと思った。

余談……。成田空港に到着すると、偶然日本代表の水泳チームと一緒にあったが、イギリス滞在中は日本人の活躍を知ることが出来ず、彼らの大健闘ぶりは帰国後、周囲の歓声や報道陣の数の多さから知ったことになる。






12月22日に 안녕하세요

今日から、いよいよ韓国旅行へ出発。
13:55発・KE704便でソウル仁川空港へ。
約2時間であっという間に到着した。

ダニエルのおばあちゃんのお家まで
バス(버스)に乗って行った。韓国寒い...
初の食事は 釜飯 キンパフを食べた。

 のり巻 とってもおいしかったよ。

その後、サウナへ。日本にはない健康
ランド。床が暖かかくてきもちよい
と見てもハンゲルだらけです。

12月23日に

泊まったサウナであまり寝れなかった。
だって、起きたらおじさんが隣で寝てるんだもん...

今日はレジデンス乙支路にチェックインして、
その後、徳寿宮とソウル市立美術館へ行った。
美術館では Homo Ludens というのをやった。
絵画とかが見たかったのに...。徳寿宮には博
物館みたいなのもあった。

夜は焼肉を食べたよ。びっくりしたのは、
んにくが辛いこと! レタスにお肉とんにくと
みそをはさんで食べるの。牛(우)さんでけな。

韓国で買った1つのハンゲルで STARBUCKS
と書いてあるところへ行ったらよ。今日は疲れたあ
レジデンスでぐっすり寝ました。



12月24日に

今日はゆきまはるかさんも寝坊気味だった。
朝ごはんは屋台でパンを食べた。なんか、朝から
みんな元気に働かれています。

2人でミリオレをぶらぶらして、見たら日本人と
分かる「何探してますか?」と声がけられるの。コワイ

ダニエルと合流してから、3人で水原まで特急
列車に乗って出掛けた。そこでは世界遺産を
見たよ。「水原華城」ここは全部歩くとすごい
時間がかかるらしい...。長安門を見た。ずーっと
歩いていた。民族衣装着たおじさんも立っていたよ。

国鉄と地下鉄に乗って、夜は汝矣島にある
大きい教会のクリスマスコンサートへ行ったら。子供
の歌・ハンドベル・オペラ・合唱・全部が生で
すごいキレイだし、本当に感動したの。こんなクリ
スマス・イヴはステキ。道を歩いている時の夜景も
きれいだったよ。

今日は、夜、はるかさんと2人でごはん食べたん
だけど、メニューが読めないし、分からなくて困った...
ゆきまハンゲルもうちょっと勉強してくればよかった
なって、本当に思った。

Merry Christmas

12月25日にち

今日は朝、明洞大聖堂
に行つて、ミサにちよつとだけ
参加してきたよ。この教会は
カトリックだから、何となく
落ち着いていた。

その後、질시루
Jilsi ru
おもちの博物館へ行ったよ。
け。こうちちかくて、あん



45mの尖塔
おもちの博物館
聖堂の中も広い。

まり見るとこがなくてかわかりましたよ...。1Fのカフェ
にいたので、ちよとおもちを買った。明洞からはずっと
歩いて、ここまで来たの。お昼に石焼きビビンバを
食べた。あんまり辛くなかった！唇が辛さに慣れたかな...

道に迷った時、教えてくれたのは日本人の留学生だった。
韓国に留学してるなんて、すごいよ。

昌徳宮・宗廟を見に行つて、そこでボランティアをしているおばあちゃん
に会った。とっても優しく、親切に案内してくれました。昔、日本の名字
は加藤、と付けられてたんだって。すごい勉強家になった。ありがとうです！

明洞に戻つて、馬車はすごい人混み！エスカレーターに乗つて写真撮つてる人
もいたの。抜け出して、デパートのフードコートへ。シヤ-シヤ-麺を食べたよ。
ポト-ゲームカフェへ何軒か回つたけど、全部閉まってる。みんな帰っちゃった...

韓国での食べたもの



結局、ろくどスタバでお茶して、帰ったよ。
今日は、クリスマスだからかな？とにもすごい
はるかさんと飯はささげかけ、ケーキ
を買ってクリスマスパーティーをした。



35000円 いろんな味のケーキ
買った。たは...
タ-エルカ-ヌ-の
はんこを買つてくれたよ。
いとりもした。クリスマス！

12月26日にち

今日は、朝起きたらもう9:00だった...

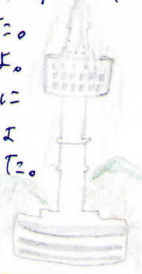
朝からショッピングに出かけたんだけど、ミリオネ
とかは、全然店員さんがいないの。いても、朝ごはん
食べたし、お化粧したし、女子勝ちだった。
カルチャーショック。それから、ロッテ百貨店へ
ヨソ様に会いに行った。あつと等身大のすごい
[じ]と思つたら、たごの厚紙の[じ]さうなの...残念。

明洞でバレンタイン化粧品とかいう所へ行った。
すごいコスメが豊富だった。そこでラメラの
アイシャドウをはるかさんとおそろいで買ったよ。

その後、ゲームカフェへ行った。すごいキレイな
ところで、シヤンカとチキンとフタと[?]と
[?]をやった。すごいたのしかった。でも、
説明してくれるお姉さんの韓国語がすごい早かった。

ピザパットでごはんを食べて帰った。
それから、夜にソウルタワーへ行ったよ。
完全防備の服装で行ったから、そんなに
寒さは感じなかった。上から見る夜景は
キレイでソウルは光の街だった。と思った。

今日はレジデンス最後の日。運動場
に戻つて来た後、明日買つたの
下見へ行った。寝たのは3:00くらい
だったよ...



12月27日にち

いよいよ、レジデンスチェックアウトの日。チェックアウトして、
観光所を円をウォンに換えてもらった。そして、下見のお店の
コートを買った。2人ともおねがひで 38000円 (38000円!!) で買ったよ。
すごい。さすが韓国だ。と思った。

今日は地下鉄2号線に乗つて、三成 Samseong まで行った。
COEXモールにあるアクアリウムに行った。みんな、水族館の
ワクワクする!!キレイなタツのオトシカがいた。でも、子供に
らけて、ゆくり見れはいい...。でも、とても満足したよ。

南部ターミナルという馬車まで行って、美術館へ行ったけど、
日曜日だったから、お休みでした。それから、また移動して
お庭を見に行つた。開まつたところもあつたけど、お着た
きだよ。そこで、とてもキュートなわんに会った。

運動場に戻り、ミリオネの近くの食堂でたいていここで
ごはんを食べた。またキムチを食べた。あと、ミソク。
ラッシュの中、荷物を持って注葉まで移動した。また、
タ-エルのお家に荷物お置きしてもらつて、健康ランドへ。
今回のところは、また前のこととちよとちよちよ。サウナも何回か
入つた。夜は、フタのゲームをした。それから、はるかさんとも寝たよ。

オンドルはあつたかい。でも、時がすぎると寝るとあつたよ。



みんな
お風呂で
アクリル

おいさんの
いかに
おねがひ...

12か月の28にち

今日は朝、のんびりしすぎた。サウナに入ってから、マッサージをしてもらった。足をやしてもらったんだけど、気持ちよかったです。時々、くすぐったくて、時々、痛かったけど。胃腸が悪い。水分も栄養も摂った方がいい。全然韓国語分からないから、マッサージ師の人がカタコトに言ってる時、心配だった…。足が軽くなつたよ。

11:00すぎにランドを出て、昨日行けなかった美術館へ。西洋美術の40年とかいうのをやっていた。芸術はすごい!! 本当に絵は色とかきれいな表紙とかもキレイな絵が多かった。ここに着くまで、ゆきとはるかさんは電車で寝すぎちゃったの…。

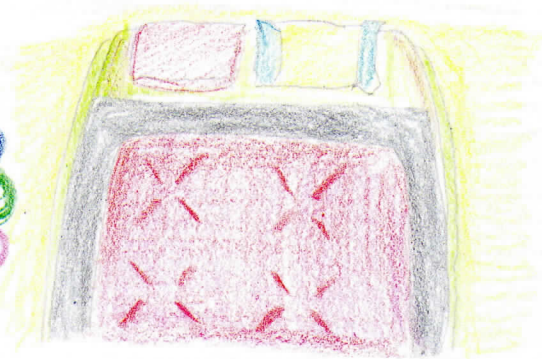


その後、真洞劇場へ行ったんだけど、最終公演に間に合わなかった。それから、観光案内所に行くと、他に見る所がないか聞いたの。そしたら、そこにいる優しいお母さんみたいな人が、いろいろ案内してくれることに。3人で電車で来て、大方という駅で降りて、お母さんのお家へ行った。娘さんたちが、同じ年なの。だから、娘さんについて言ってくれて。コーヒーとりんごをぶらさうになった。それから車に乗せてもらって、汝矣島の63ビルや国会議事堂、多くの放送局を車から眺めた。出会った所々まで送ってもらい、サンケイの美味しい

お店も教えてもらった。とてもキレイなけど、日本に会った優しい人がきっかけになって、今、こうやってボランティアしてるんだった。

7年間勉強して、ずいぶん日本語が上手になった。汝矣島はマンハッタンって言われてるんだ(笑)。偶然に出会えるなんて、本当にステキな日だった。21日の後、ルミナリオ(?)イタリヤのイルミネーションをゆくり見たり、いろいろ歩いてまわった。そしたら、知っている通りに出て、なんかやとソウルが頭の中をひたひたにわがった気がした。

夜おきくよ。て巨大スーパーマーケット、カルフォルンでおみやげを買った。歩いておばあちゃんのお家まで帰って、すぐに明日に備えて寝たよ。初めて韓国の家庭のお家にお泊り。



12か月の29にち

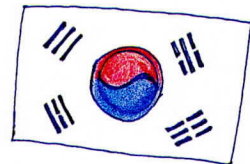
今日は、朝の4:30に起床。それから支度をして5:30にお家を出発して仁川国際空港へ向かった。本当にあつという朝だった。バスに乗ると、さみしくなった。

空港で荷物を預けた後、免税店でショッピングをした。いくらも入るおみやげを買ったよ。そして、最後の韓国料理をフードコートで食べた。サムチゲと、何かのスー。何だった? いやいよ出発の時間が来て、9:20発

KE701便で成田へ向けて飛んだ。

機内では、疲れて眠ったけど、なんかもったいなくて寝たくなかった。すぐに成田に着いた。バスで横浜へ。ぐっすりねらった…。たぶん日本!! あんまり海外旅行した気分じゃないけど、でも違う体験が、いいよ。ほんと、楽しかった。

横浜駅について、今日は雪が降っていた。日本も寒いよ。ダニエルが車でお家まで送ってくれた。そして、いくらもママに電話した。なんか、早く家族に会いたくなっちゃった。はるかさんと東自樂のお風呂に行くと、のんびり日本のお風呂に入りました。でも、何かが、周りの声は韓国語に聞こえる…?! はるかさんのお家で、ジーンかをして、帰ったよ。1人の帰り道、とてもさみしくなった。はるかさん、ダニエルありがとう。 감사합니다



おしまい。

神大生旅行記④
北海道旅行記



こうという壮大な計画を立てたのだ。…あつたま悪い。
そもそも、北海道旅行の目的はいくつかあって、1つが「弓の購入」、1つが「どこでもいいから遠出したかった」、そして最後の1つが「ノリでなんとなく」というこれまた利口とは思えない目的である。こんな自分が大好きです。ひゃっほう☆

するならば「五稜郭を始め小樽、室蘭などの様々な歴史的、文化的な遺産をこの目で見たい」だとか「雄大な大地に包まれない」だとか言うのかもしれないが、僕は口が裂けてもそんなことは言えやしない。
ちなみに、帰宅後すぐにパソコンを立ち上げ、これから僕のやろうとしている事をすでにやった偉人(異人?)を探したのは言うまでも無いだろう。
…馬鹿だ…ああ馬鹿だ。書いてて頭が痛くなってきた。

僕の先人達の多くは新潟を経由して寝台列車で行くことを勧めていたのだけど、寝台列車なんて乗ったことがないし、到着も朝早くらしいので、寝起き最悪な僕としては少々難あり。

さて、どうしたものかと考えていると、いるじゃないですか、朝から夜まで電車に乗りっぱなしで北海道へ行った人が！しかもモデルパターンまで書いてある！最高だこの人！

こうして、日程はこのように←決まり、ただの思いつきが実行されるにいたるのであった。

- 1日目 辻堂—青森
- 2日目 青森—札幌
- 3日目 札幌—長万部
- 4日目 長万部—盛岡
- 5日目 盛岡—辻堂

…さて、結論を言う結論結構良かったが、やはり無謀だったと思う。

座りすぎてケツが痛くなるし、「これだけあれば北海道まで余裕だろう？」と思い、持って行った文庫本6冊を青森に着く前に読みつくし、相当ヒマなものだから、日記を書こうと思いついていったノートにポエムを1時間くらい書き続けたり(後で読んだら素で恥ずかしくなった。どうやら僕は詩人にはなれそうもない

2004年8月24日、記念すべき(?)この日の早朝、30リットルサイズのリュック1つのみの超軽装で、僕は北海道へ向けて旅立った。

家を出て数分後雨が少し降ってきて、折り畳み傘を差したところ骨が折れ、再起不能。

最悪なスタートだったが、気にせず駅に向かうとする。傘は駅のゴミ箱へ捨てた。

友人、家族、そして旅をする僕自身もこの旅行は馬鹿げていると思った。というか、言ってきた。「お前、馬鹿だろう?」って。そんなこと知ってる。

だって、青春18切符で辻堂(横浜から電車で30分くらいの駅)から北海道へ行き用事をすませ、帰ってこようというのだから。

…ちなみに補足説明だが、青春18切符というのはJR全線を5日間乗り放題という便利な切符である。しかし、基本的に特急などに乗れず各駅停車または快速などの鈍行列車で目的地へと目指すことになってしまう。そう、つまり僕は鈍行列車のみで北海道へ行

「旅行を考えた時の僕☆ in 東海道線」

大学生になっても弓道が続けるわけだし、新しい弓が欲しいなあ…。

← それにそろそろ休みに入るからどつか旅にも出たいなあ…。

← ……!!

← そうだ、愛用品の弓のメーカー北海道だし、弓を買いに旅に出よう!!

← いや、でも飛行機代高いしなあ…あ。(青春18切符ポスター発見)

← 別に現地に行かなくても近くの弓具店に行けば注文できるし、電話での注文だってできる。そんなわけだから、わざわざ北海道に行く理由が見つからない。

← …もし、僕以外のお利口な誰かが北海道に行く

しい)、持って行ったMDも聴き尽くし、何か新しい刺激を求め、25日に発売だったバンプ・オブ・チキンのアルバムが聴きたいがためにCDプレーヤーとアルバムの五稜郭駅のヤマダ電機で購入し、札幌に着くまで延々と聴き続けて歌詞を覚えてしまったり、荷物の軽量化を図りすぎたために着替えが無くなり同じ服を2日間着続けたり(コインランドリーがないからいけないんだ!)観光だってマトモにできてなかったしなあ…。ああ、無計画なのが目立ってしまう。

では、印象に残っている所(というか、ノートの走り書きと思いだ)を紹介したいと思う。旅行記をここまで書いていて、旅先の事をほとんど書いて無かったのは気にしないでいただきたい。本人が一番気にしていたりしますが…。

時間軸に沿って紹介をしていくと、1日目の印象に残っているところは、

「辻堂」この無謀な旅の出発点。「宇都宮」この辺から線路沿いの民家や店の数が減ってくる。次は「仙台」牛タン最高!んで、「好摩」この辺で携帯のバッテリーが切れた(笑)2日目。

「青森」リング美味え。トウモロコシ美味え。メシ美味え…。食ってばかりでやんの。

「五稜郭」五稜郭駅と五稜郭が離れすぎ。徒歩20分って何なんでしょう?電車の待ち時間が半端だったため、観光に行けなかった。

…かと言って駅で待ちぼうけるのも嫌なのでその時間を利用してヤマダ電機へ。前に書いたようにCDプレーヤーとバンプのアルバムを購入。店員さんがすごく優しく、旅行をしている旨を話すと、携帯ストラップをくれた。

そして「札幌」やっとなついた北海道の県庁所在地。ホテルに荷物を置いて色々探索をしていたのだけ

れど、到着した時間が10時過ぎだったため、色々店が閉まっていた。腹ごしらえのために入った某店の醤油ラーメンが不味かった。食べてる最中、「駅前

踏んだり蹴ったり。3日目。旅行もあと半分。午前中は札幌で、お土産と本の購入に費やした。「手稲」目的の弓具店があるところ。弓具店は駅から徒歩3分。近い。寺

内弓具さんと言うのだが、優しい方で、色々サービスをして頂いた。「小樽」…のどか。ふらふら散歩をする。小樽運河から少し離れたところのラーメン屋で昼食を取ったのだが、不味い。むう…。ついてないなあ。小樽を出発してしばらくしてから気がついたことが1つ。「あ、蟹食ってねえ!」はい、手遅れ。そして「長万部」。この町大好き。駅の周りに何も無いけれど、コンビニだって全然ないけれど、この町には温泉がある…。僕はそれだけでもうイヤ。正直な話、ここに永住するのもありかなと素で考えてしまうほど素敵なところだった。

旅館の温泉で頭から湯をかぶった時にしよっぱかった。「俺そんな汗かいたのか?!」と驚いたが、そんなわけなく、温泉がしよっぱい。泉質がナトリウム塩化物泉だそうで、そのせいでしよっぱかったのだ。

4日目。この辺からケツの痛みが深刻なものに…。この日は長万部に対する惜別の思いが強すぎてあまり印象に残っていない。印象があったのは「盛岡」で、駅周辺に何も無いこと。

駅がこんなに大きいのに、なんで店がないのかなあ?わんこそば食べたかった…。

5日目。最終日。

予想よりも早く目が覚めたので、出発の時間を2時間ほど早まらせることにした。



出た屋台のラーメン屋にすればよかった…!!!」と強く思ったものだ。しかも、この店でお気に入り

のピアスのストッパーを落とし、行方不明に。まさに

当初の計画では昼ごろに「一ノ関」に着き、そこで駅弁を買い、車中で食べるはずだったが、お昼ごろに「仙台」に着いたので牛タンを食べることに。やっぱり牛タンは美味しい。

「福島を出てしばらくしたら友人からメールが入る。以下本文」よお松井。今日いつものゲーセンに集合な、倉本と競馬のゲームやってるから」

「・・・たしかコイツ北海道旅行中って知ってたはずだよな?」と思いつつもメールを書く。

「・・・えっと、まだ福島を過ぎたところで、藤沢に着くの9時半くらいになります」

「そうか、遅いんだな。じゃあ、今日は疲れてるだろうし、イイヤって返信が来る。そんな淡い期待を胸に抱きながら、送信。

・・・数分後・・・

『おう、わかった。集合な』

ああ、こういう事になるだろうと予想はしてたけどありえない。

まあ、こういう事になるだろうと予想はしてたけどね!(泣)

「宇都宮」に着いた時、次の電車までの待ち時間が20分もあったのでピアスの購入の為、駅ビルへ。2個セットのプラスチック製のピアスがなかったので購入。色は赤と黒。

ホクホクしながら次の電車に乗る。宇都宮をでた数分後に「餃子食ってねえ」と後悔をした。まったく小樽での出来事から学習してないなあ・・・

宇都宮から快速に乗ったので、上野までは1時間半程度で着いてしまった。上野まで来てしまえば、あと一息。上野から東海道線に乗って行っても良かったのだが、少ししたら新橋から快速電車が出るようなのでそれに乗ることに決定。乗り継いで新橋へ。

新橋から1時間足らずで藤沢に着く。

藤沢に到着後、一路ゲーセンへ。「よお、松井」いつものように2人から挨拶される。僕もいつものように挨拶

を返す。「よお、イノ、倉本」がさそことバックの中から土産を取り出し、渡す。イノには「熊カレー」倉本には「エゾ鹿カレー」。引かれた。

しばらく遊んだ後、家路に着く事に。

懐かしの(と)いっても4日ぶりだが「辻堂」。さあ、あと徒歩15分で我が家だ。

ここで、旅行記を終わらせたいと思う。さて、これからどうなったのか?それはご自由に考えていただきたい。トラブル続きの旅行、単純に家に着いてしまったら、面白くない。

さて、今回の旅で学んだことだが、次回以降どこかに遠出するときは、その地域の美味しい物を調べておく事、観光地を調べておく事、多少費用がかかっても飛行機で行くことである。



こんな旅行を考える方はなかなかいないと思うが、もし不幸にも考えてしまったのなら、考え直すことをおすすめしたい。

この旅行記を読んだらわかると思う。

なあ、そう思うだろうか?

